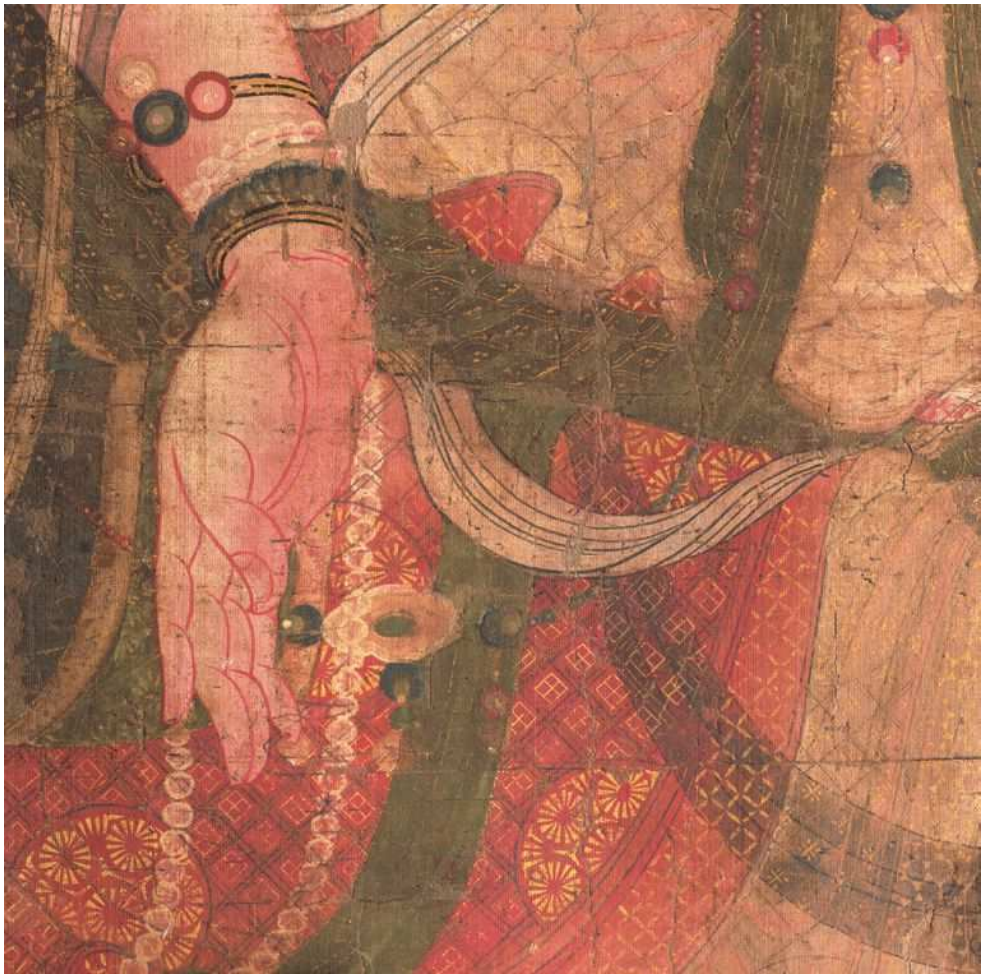
Nara National Museum

奈良国立博物館だより

第58号

平成18年 7・8・9月



国宝 十一面観音像（部分　奈良国立博物館）〈親と子のギャラリー「探検！仏さまの文様」より〉

特別展

北村昭斎 —漆の技—

9月2日（土）～10月1日（日）
東新館

親と子のギャラリー

探検!仏さまの文様

7月22日（土）～8月20日（日）
東新館

特別陳列

やまとの匠

−近世から現代まで−
～7月9日（日）　東新館

復原模写完成記念
国宝 子島曼荼羅
7月22日（土）～8月20日（日）
東新館

平常展

仏教美術の名品

本　館　～7月9日（日）、8月1日（火）～
西新館　～10月1日（日）

中国古代青銅器

本　館　平常開館
（7月11日～30日の本館は「中国古代青銅器」のみ開館）

特別陳列

やまとの匠

近世から現代まで

6月10日（土）～7月9日（日）
東新館

春日瑠璃燈籠写
／坂本曲斎作

白鹿／寺瀬三楽作

後高砂／森川杜園作

江戸時代に社寺への参詣者で賑わった奈良では、様々な種類の工芸の世界に、数々の名工たちが現れ、それを引き継いだ明治時代にも、正倉院宝物に学ぶなど新たな展開がありました。それらの作品を、関連の絵画作品や、また現代の作家たちの作品とあわせてご覧いただきます。

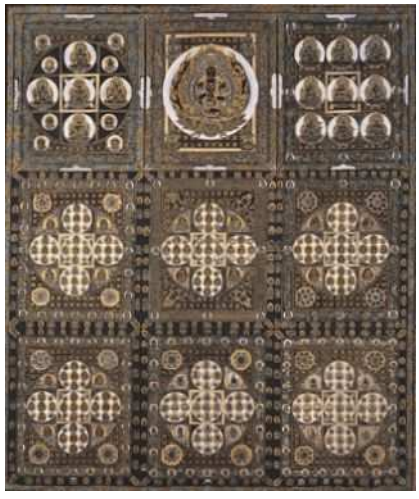
奈良絵茶碗／奥田木白作

復原模写完成記念

特別陳列

国宝 子島曼荼羅

◉金剛界（原本　子嶋寺）



金剛界（模写　文化庁）

7月22日（土）～8月20日（日）
東新館

主催/奈良国立博物館
子嶋寺

共催/文化庁

奈良県高取郡の子嶋寺に伝来した「紺綾地金銀泥両界曼荼羅」（通称「子島曼荼羅」）。

紺地に金銀で描かれた平安仏画屈指の名品を、このたび新たに完成した精巧な復原模写とともに展示します。原本がもつ魅力を再発見し、あわせて模写製作過程や意義を広く知っていただく、またとない機会となるでしょう。

胎蔵界（原本・模写）
7月22日（土）～8月6日（日）
金剛界（原本・模写）
8月8日（火）～8月20日（日）

◉胎蔵界（原本・部分　子嶋寺）

胎蔵界（模写・部分　文化庁）

親と子のギャラリー

探検！仏さまの文様

7月22日（土）～8月20日（日）　東新館

協力/日本写真印刷　協賛/日立製作所

◉法華経（竹生島経・部分　宝厳寺）

◉銀壺（金堂鎮壇具のうち　東大寺）

◉十一面観音像（奈良国立博物館）

両界曼荼羅（部分　南法華寺）

仏像や仏具あるいは写経といった仏教美術は、植物や動物、風景など色々なかたちの文様で美しく飾られています。今回は作品そのものを観賞するだけでなく、最新技術で撮影されたデジタル画像も使って作品の細部にせまり、彩色や截金、透彫などの技法にも注目していきます。よりすぐりの名品が並ぶ、豊かな文様の世界への探検をお楽しみ下さい。

（裏面の「話題」欄に関連記事があります。）

特別展

北村昭斎

―漆の技―

沃懸地雛菊螺鈿蒔絵手箱模造（鶴岡八幡宮）

瑞鳥唐花文螺鈿箱（文化庁）

金地玳瑁螺鈿八角箱

春日野玳瑁螺鈿料紙箱

奈良在住の漆芸作家、北村昭斎（一九三八～）は、重要無形文化財（螺鈿）と選定保存技術（漆工品修理）の認定を併せ持ち、創作のほか、文化財の修復、復元模造の製作と、多面的な活動を精力的に続けています。文化財の保存と、現代的な感性によるその継承に成果をあげている、北村昭斎の仕事の全貌を、その基盤を築いてきた祖父久斎・父大通の作品とともに、ご覧いただきます。

9月2日（土）～10月1日（日）
東新館

主催／
奈良国立博物館
朝日新聞社

話題

肉眼で見えないもの

―国宝「十一面観音像」の光学的調査―

「十一面観音像」は、当館が所蔵する仏教絵画の中でも人気の高い作品で、展示の機会を心待ちにしている方も少なくないと思います。絵画の十一面観音像としては唯一の国宝で、朱と緑青を中心とした鮮やかな彩色、着衣に施された截金文様、装飾的な光背や台座などが、平安仏画らしい優美な雰囲気を漂わせています。一方で、しっかりとした眉や口元などから感じられる意志的な表情や濃厚な隈取りが、他にはない強い個性をつくりだしています。当館では東京文化財研究所との共同研究として、最新の技術を使ってこの「十一面観音像」の材質や技法を詳しく調査し、その魅力に迫りました。

2,200万画素の高精細デジタルカメラを使い、全体を14cm×20cm程度の狭い範囲に区切って撮影しました。このデジタル画像は近接して撮影しているため、拡大しても素材の質感がはっきりと見て取れます。さらに細かい部分を撮影した画像では、作品を実物より約35倍（コンピュータのディスプレイで拡大した場合の実物との比率）の大きさまで拡大することができるので、肉眼では見ることの難しい絹目の1本1本や顔料の粒子レベルまで情報を得ることができます。今回はカラー画像の撮影と並行して、近赤外線画像、蛍光画像の撮影や、蛍光X線分析による顔料の元素の調査もおこないました。

蛍光X線分析の結果、銀が使われていると思われていた条帛や水瓶、台座の宝珠からは銀が検出されず、カラー画像から黒色と青色の顔料の粒が確認できました。またこの画像を通じて、肉身の隈取り部分では、白色と朱色が少しずつ濃淡を変えて段階的に塗られている様子も観察することができました。近赤外線画像では、目視では見にくい下描き線などがはっきりと見え、図像の変更が確認できました（写真）。こうした調査からは、材質や技法の研究だけでなく、文化財の保存状態に関しても有用な情報が得られます。この作品は保存が良好で、天蓋や光背の外縁部分などが見えにくくなっているものの、後世の補筆、補修の跡もほとんど確認されませんでしたので、制作当初と遜色ない美しい姿を留めているといっていいでしょう。

頭上面の二つの近赤外線画像。正面向きの下描き線が確認され、最終的な描起こしの段階で、視線を右下に落した表情に変更されたことがわかります。

このようなデジタル技術を活用した調査は、文化財の研究や保存をおこなう上で、今後も重要になってくると思われ、得られた情報を積極的に活用し、一般の皆さんにも公開して共有の資源としていくことが課題です。調査結果は、昨年からおこなっている地下回廊のパネル展示に引き続いて、この度、報告書として刊行されました（『奈良国立博物館所蔵　国宝　絹本著色十一面観音像』中央公論美術出版）。当館のミュージアムショップや一般の書店で販売されているほか、新館一階の図書コーナーにも設置していますので、詳しくは是非そちらをご覧ください。

「十一面観音像」は、7月22日から8月20日まで開催する「親と子のギャラリー　探検!仏さまの文様」に出陳いたします。着衣に施された文様に注目して、デジタル画像も使いながら、作品の魅力を大人から子供まで分かりやすく紹介したいと思います。この夏は展覧会場で、この装飾性に富んだ平安仏画の名品を心ゆくまでお楽しみください。

宮崎幹子（当館研究員）

表紙および本ページの写真撮影
＝城野誠治氏（東京文化財研究所）

●展覧会日程●

	7　月	8　月	9　月
本　館	平常展〔彫刻〕（～7/9）	平常展 仏教美術の名品〔彫刻〕（8/1～）	
	平常展〔中国古代青銅器〕		
西新館	平常展 仏教美術の名品〔絵画・書跡・工芸・考古〕（～10/1）		
東新館	特別陳列 やまとの匠（～7/9）	親と子のギャラリー 探検!仏さまの文様（7/22～8/20） 復原模写完成記念 特別陳列 国宝 子島曼荼羅（7/22～8/20）	特別展 北村昭斎 ―漆の技―（9/2～10/1）

◎菩薩立像（金竜寺）

◉舎利弗立像（興福寺）

◉神功皇后像〈八幡三神像のうち〉（薬師寺）

◎三尊仏龕（当館）

爵（当館　坂本コレクション）

平常展
仏教美術の名品
本館第1～13室

彫刻

8月1日～
展示構成を一新しました

第1室
【大和の仏たち】◉木造多聞天立像（法隆寺）、◉木造薬師如来立像（元興寺）、◎木造虚空蔵菩薩半跏像（北僧坊）、◎木造伝明星菩薩立像（弘仁寺）、◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝救脱菩薩立像（以上、秋篠寺）、◎木造持国天立像、◎木造多聞天立像、◎木造西大門勅額（以上、東大寺）、◉脱活乾漆舎利弗立像、◉脱活乾漆目犍連立像、◉脱活乾漆緊那羅立像、◉木造伝行賀坐像（興福寺）、◉木心乾漆義淵僧正坐像（岡寺）、◎木心乾漆阿閦如来坐像（西大寺）、◎木造紅玻璃阿弥陀坐像（当麻寺）、◎木造十一面観音立像（勝林寺）、◎木造十一面観音立像（地福寺）、◎木造菩薩立像（金竜寺）、◎木心乾漆文殊菩薩坐像、◉木造八幡三神像（以上、薬師寺）

第2室
【興福寺伝来の四天王像】◎木造広目天立像（興福寺）、◎木造増長天立像、◎木造多聞天立像（以上、当館）
【観音菩薩】◎木造十一面観音立像（薬師寺）、◎木造千手観音立像（園城寺）、◎木造千手観音立像（妙法院）、◎木造十一面観音立像（元興寺）
【迎講の阿弥陀仏】◎木造阿弥陀如来立像（浄土寺）
【注目の逸品】◉木造薬師如来坐像（当館）

第3室
【仏の荘厳】◉木心乾漆光背（聖林寺）、◎銅造光背〔二月堂本尊所用〕（東大寺）、◎木造光背〔五面〕（当麻寺）、◎木造仏坐像〔光背化仏〕、◎木造飛天（以上、興福寺）、◉阿弥陀如来像台座（法隆寺）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）

第4室
【ガンダーラの彫刻】石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫（以上、当館）
【中国石窟寺院の仏像】石造如来頭部〔雲岡〕、石造菩薩頭部〔鞏県〕、石造菩薩頭部〔響堂山〕、石造螺髻像頭部〔響堂山〕（以上、個人）
【中国・韓国の金銅仏】銅造二仏並坐像（当館）、銅造誕生釈迦仏立像、銅造押出五尊仏、銅造供養者坐像、銅造観音菩薩立像、銅造力士立像、銅造力士立像（以上、個人）、銅造如来立像〔韓国〕（光明寺）銅造如来立像〔韓国〕（当館）

第5・6室
【中国の仏像】木造菩薩坐像、石造仏坐像、◎木造諸尊仏龕（以上、個人）、◎石造十一面観音立像、◎石造三尊仏龕（以上、当館）、◎石造三尊仏龕、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏浄土碑像（以上、個人）

第7室
【伎楽面】◎伎楽面〔迦楼羅・崑崙・酔胡王・酔胡従〕（東大寺）

第8室
【金銅仏】◉銅板法華説相図（長谷寺）、◎銅造観音菩薩立像（石山寺）、◎銅造菩薩立像（法起寺）、◎銅造観音菩薩立像（法隆寺）、◎銅造菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造菩薩半跏像〔東大寺〕、◎銅造観音菩薩立像（金剛寺）、◎銅造誕生釈迦仏立像〔正眼寺〕、◎銅造誕生釈迦仏立像〔悟真寺〕、◎銅造薬師如来立像〔般若寺〕、銅造釈迦如来坐像〔園城寺〕、銅造誕生釈迦仏立像〔薬師寺〕、◎銅造薬師如来坐像、銅造金剛童子立像、◎銅造蔵王権現立像（以上、当館）

第9室
【釈迦如来】木造釈迦如来坐像〔法隆寺〕、◎木造釈迦如来坐像〔東大寺〕、木造出山釈迦立像、◎木造釈迦如来立像〔清涼寺式〕（以上、当館）、◎木造仏涅槃像（照源寺）
【阿弥陀如来】木造阿弥陀如来坐像（当館）、木造阿弥陀三尊像（峰定寺）、木造阿弥陀如来立像（東大寺）、木造阿弥陀如来坐像（西大寺）、◎銅造阿弥陀如来立像（善光寺）

第10室
【地蔵菩薩】木造地蔵菩薩立像〔十市町自治会〕、◎木造地蔵菩薩立像（大福寺）、木造地蔵菩薩立像〔誓多林町〕、◎木造地蔵菩薩立像（長命寺）

第11室
【大日如来】木造大日如来坐像（元興寺町）、木造大日如来坐像（西城戸町）
【弥勒菩薩】木造弥勒菩薩立像（林小路町）、木造弥勒菩薩坐像（薬師寺）
【神像】木造男女神像（当館）、木造男神像（観音寺）
【聖徳太子像】◎木造聖徳太子立像（成福寺）、◎木造南無仏太子像（法起寺）

第12室
【動物彫刻】◎木造狛犬〔手向山八幡宮〕、◎木造狛犬、◎木造獅子、木造獅子（以上、当館）

第13室
【明王像】木造五大明王像、◎木造愛染明王坐像（以上、当館）、◎木造不動明王坐像（園城寺）、◎木造不動明王坐像〔正寿院〕、木造不動明王立像（個人）
【天部像】木造毘沙門天立像（石清水伝来）、木造吉祥天倚像、木造伝大黒天立像（以上、当館）、◎木造大黒天立像（興福寺）、◎木造十二神将立像〔辰・未〕（室生寺）

国宝　木造多聞天立像（もくぞうたもんてんりゅうぞう）　法隆寺
飛鳥時代（7世紀）

わが国現存最古の四天王像として名高い、法隆寺金堂四天王像のうちの一体。六五〇年頃の作と目され、右手に宝塔（ほうとう）、左手に戟（げき）を執り、円形の頭光を背負う。その神秘的な風貌や邪鬼（じゃき）の上に直立する体勢は、後世の動きに富んだ四天王像とは全く異なる印象を与え、静けさのうちに確かな存在感が漂う。浅いながらも切れ味鋭い彫り、微妙な起伏をとらえた各部の造形の的確さには目を見張るものがあり、上代彫刻の傑作の一つに数えられる。

クスを材に用いる点、衣の布が規則正しく折りたたまれた様子をあらわす点などに飛鳥彫刻の特色が顕著に示されているが、法隆寺金堂釈迦三尊像や夢殿救世観音像といった七世紀前半の作例と比べると、奥行きのある体躯や、天衣（てんね）が前後方向に翻転する点などに側面からの視線を想定した表現がみられ、様式展開のあとがうかがえる。

宝冠（ほうかん）をはじめ制作当初のものが残る銅製透彫（すかしぼり）金具、玉虫（たまむし）の翅（はね）を用いた戟の装飾など、精巧かつ入念な工芸技術。西域の武人を思わせる、襟を立ち上げ、フリルをつけた異国的な着衣。ユーモラスな感覚をたたえた、邪鬼の表情とポーズ…細部まで目を凝らして、その魅力を存分に味わっていただきたい。

稲本泰生（当館企画室長）

平常展
中国古代青銅器（坂本コレクション）
本館第14・15室

爵・尊・鼎など中国古代の商（殷）～漢代に製作された青銅器の逸品を展示しています。

パネル展示
修復文化財
地下回廊

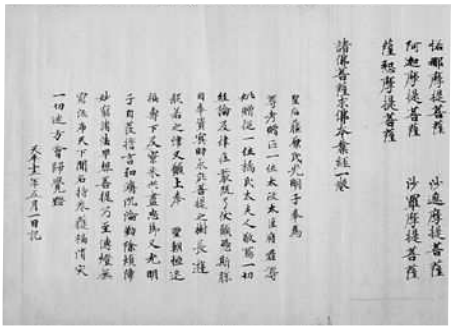
〈絵画〉　重要文化財　絹本著色四十九化仏阿弥陀来迎図（京都・光明寺）
〈彫刻〉　重要文化財　木造持国天像〔内山永久寺伝来〕（奈良・東大寺）
〈工芸〉　国宝　毛抜形太刀〔若宮御料古神宝のうち〕（奈良・春日大社）

パネル展示
国宝　十一面観音像（当館蔵）の光学的調査
地下回廊

人物線刻装飾付子持壺（当館）

◉牛皮華鬘（当館）

◉龍樹菩薩像（一乗寺）



諸菩薩求仏本業経〈五月一日経〉（当館）

平常展
仏教美術の名品
西新館

考古

6月24日～7月30日

土偶〔山形県杉沢遺跡出土〕（当館）、銅鐸（妙国寺）、人物線刻装飾付子持壺（当館）、◉粟原寺伏鉢（談山神社）、瓦塔〔静岡県三ヶ日町出土〕、素弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県横井廃寺出土〕、単弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県山田寺出土〕、複弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県川原寺出土〕、単弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県川原寺出土〕、複弁蓮華文軒丸瓦・均正唐草文軒平瓦〔奈良県山村廃寺出土〕、複弁蓮華文軒丸瓦・均正唐草文軒平瓦〔奈良県東大寺出土〕、火頭形三尊塼仏〔三重県天華寺跡出土〕、六角形塼仏〔三重県松山市出土〕、銅製経筒・小銅仏〔伝福岡県出土〕、◎銅製経筒・滑石製外筒〔伝福岡県出土〕、◎滑石製弥勒如来像〔鉢形嶺経塚出土〕（以上、当館）、三尊塼仏〔南法華寺〕、◎鍍銀経箱・紺紙金字法華経〔金峯山経塚出土〕（金峯神社）

特集展示【宝器埋納の流れ―副葬・鎮壇・奉納―】

銅矛〔愛媛県川江市出土〕、銅鏡・鍬形石・車輪石・石釧〔北和城南古墳出土〕、◎大刀・鉄剣〔奈良県大和天神山古墳出土〕、玉類・金製耳飾ほか〔奈良県星塚古墳出土〕（以上、当館）、◉大刀・銅鏡ほか〔東大寺金堂鎮壇具のうち〕（東大寺）、銅製経筒・大刀・銅鏡・青白磁合子〔伝近畿地方出土〕（当館）、玉類・金糸ほか〔中宮寺塔心礎上面出土〕（中宮寺）、◎玉類〔元興寺塔跡出土〕（元興寺）

8月1日～10月1日 ※主な出陳品

土偶〔山形県杉沢遺跡出土〕（当館）、銅鐸（妙国寺）、人物線刻装飾付子持壺（当館）、◉粟原寺伏鉢（談山神社）、瓦塔〔静岡県三ヶ日町出土〕、素弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県横井廃寺出土〕、単弁蓮華文軒丸瓦〔奈良県山田寺出土〕、複弁蓮華文軒丸瓦・均正唐草文軒平瓦〔奈良県山村廃寺出土〕、複弁蓮華文軒丸瓦・均正唐草文軒平瓦〔奈良県東大寺出土〕、火頭形三尊塼仏〔三重県天華寺跡出土〕、六角形塼仏〔三重県松山市出土〕、銅製経筒・小銅仏〔伝福岡県出土〕、◎銅製経筒・滑石製外筒〔伝福岡県出土〕、◎滑石製弥勒如来像〔鉢形嶺経塚出土〕（以上、当館）、三尊塼仏〔南法華寺〕ほか

工芸

6月24日～7月30日

特集展示【春日龍珠箱とその周辺―重要文化財指定に寄せて】

◎春日龍珠箱、春日神鹿舎利厨子、愛染明王香合仏（以上、当館）、◎金銅火焔宝珠形舎利容器（海龍王寺）、◎四方殿舎利厨子（能満院）、◎五輪塔嵌装舎利厨子（不退寺）、春日宮曼荼羅彩絵舎利厨子（個人）、◎密観宝珠嵌装舎利厨子（般若寺）、摩尼宝珠曼荼羅蒔絵舎利厨子（個人）

【堂内荘厳具】◉金銅透彫華鬘（中尊寺金色院）、◎刺繍三昧耶幡、◎金銅種子華鬘（以上、当館）

【梵音具・楽器】銅梵鐘（当館）、◎銅鉦鼓（手向山八幡宮）、◎金銅琵琶（丹生都比売神社）、◎銅鰐口、銅孔雀文磬、銅孔雀文磬（以上、長谷寺）、金銅孔雀文磬（薬師寺）

【密教法具】◉金銅密教法具（厳島神社）、金銅独鈷杵、金銅三鈷杵、金銅割五鈷杵（当館）、銅製鍍銀五鈷杵、金銅九頭龍杵（談山神社）、金銅九鈷杵（上池院）、◎銅三鈷鐃（円福寺）、金銅五鈷鈴、金銅金剛盤（以上、高山寺）、金銅五鈷五大明王鈴（天河神社）、銅九鈷鈴（長谷寺）、◎金銅金剛盤（巴陵院）

8月1日～9月3日

【塔】百万塔〔附　無垢浄光経陀羅尼〕、木製宝塔（以上、当館）、木製黒漆塗宝塔（個人）、金亀舎利塔（長谷寺）

【扁額など】◎扁額（般若寺）、扁額、扁額（海住山寺）、下馬札（霊山寺）

【堂内荘厳具】◎黒漆塗螺鈿卓（東大寺）、◎黒漆塗机（高山寺）、黒漆塗螺鈿卓、黒漆塗螺鈿卓、◎刺繍三昧耶幡、◎金銅種子華鬘（以上、当館）、◉金銅透彫華鬘（中尊寺金色院）

【梵音具・楽器】銅梵鐘（当館）、◎銅鉦鼓（手向山八幡宮）、◎金銅琵琶（丹生都比売神社）、◎銅鰐口、銅孔雀文磬、銅孔雀文磬（以上、当館）、銅孔雀文磬、銅孔雀文磬（以上、長谷寺）、金銅孔雀文磬（薬師寺）

【密教法具】◉金銅密教法具（厳島神社）、金銅独鈷杵、金銅三鈷杵、金銅割五鈷杵（当館）、銅製鍍銀五鈷杵、金銅九頭龍杵（談山神社）、金銅九鈷杵（上池院）、◎銅三鈷鐃（円福寺）、金銅五鈷鈴、金銅金剛盤（以上、高山寺）、金銅五鈷五大明王鈴（天河神社）、銅九鈷鈴（長谷寺）、◎金銅金剛盤（巴陵院）

9月5日～10月1日

【塔】獅子座火焔宝珠形舎利容器、木製宝塔（以上、当館）、木製黒漆塗宝塔（個人）、金亀舎利塔（長谷寺）

【堂内荘厳具】◉牛皮華鬘、黒漆塗螺鈿卓、黒漆塗螺鈿卓（以上、当館）、◎黒漆塗机（高山寺）

【扁額など】◎扁額（般若寺）、扁額、扁額（海住山寺）、下馬札（霊山寺）

特集展示

〈天平追慕―聖武天皇1250年忌に寄せて〉

〈第1部　奈良朝・唐朝の遺宝〉百万塔〔附　無垢浄光経陀羅尼〕、銅柄香炉、銅塔鋺形合子、銅三鈷杵、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶、銅仙盞形水瓶（以上、当館）、◎銅三鈷鐃（円福寺）

〈第2部　甦る正倉院宝物〉子日目利箒〔附　粉地彩絵倚几〕、子日手辛鋤〔附　粉地彩絵倚几〕、木画紫檀双六局、黒柿両面厨子、紫檀金銀絵書几、墨、筆、紅牙撥鏤棊子、紺牙撥鏤棊子、紅牙撥鏤尺、紺牙撥鏤尺、紅牙撥鏤撥（以上、当館）

絵画

6月24日～7月30日

【祖師像】◉龍樹菩薩像〔天台高僧像のうち〕（一乗寺）、◎善導大師像〔知恩寺〕、◎一行像、金剛智像〔真言八祖像のうち〕（神護寺）、法然上人像（十輪寺）、◎明空上人像（当館）、◎興正菩薩像（新大仏寺）、◎忍性菩薩像（大福田寺）、◎夢窓国師像（妙智院）、◎一休禅師像（当館）

【密教画】両界曼荼羅（西大寺）、◎法華曼荼羅（松尾寺）、◎一字金輪曼荼羅（当館）、◎不動明王二童子像（瑠璃寺）、◉伊舎那天像〔十二天像のうち〕（西大寺）、四種護摩壇様弁三十七尊等三形（薬師寺）、十巻抄〔仏頂等〕、金胎仏画帖断簡（無量光寺薩）、金胎仏画帖断簡（金剛舞菩薩）、不動明王二童子図像（以上、当館）

【経典の絵画】◉金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅（大長寿院）、法華経曼荼羅〔七幅のうち第五～七幅〕（当館）、◎法華経金字宝塔曼荼羅〔八幅のうち第一～四幅〕（談山神社）、◎扇面法華経冊子断簡（西教寺）

8月1日～9月3日

【浄土教画】◎地蔵十王像〔陸信忠筆〕（永源寺）、◎十王像〔陸仲淵筆〕（当館）、◎地蔵十王像（能満院）、◎閻魔王庁図（長泉寺）、◎釈迦阿弥陀発遣来迎図〔雲辺寺〕、阿弥陀聖衆来迎図〔金剛寺〕、◎阿弥陀四十九化仏来迎図〔光明寺〕、当麻曼荼羅、観経序分義図（以上、当館）

【密教画】◎紅玻璃阿弥陀像〔長命寺〕、尊勝曼荼羅〔宝山寺〕、如意輪観音像、◎不動明王八大童子像（以上、当館）、◎愛染明王像（宝山寺）、◉十二天像〔日天〕（西大寺）、十巻抄〔天部〕、大隨求曼荼羅諸尊等図像（以上、当館）

【中世から近世の仏画】◎水月観音像〔天庵妙受賛〕、文殊菩薩像〔無隠元晦賛〕、仏画帖〔探幽縮図〕（以上、当館）、◎釈迦三尊像〔長命寺〕、文殊普賢菩薩図〔妙顕寺〕、不動明王像〔湛海筆〕、吉祥天像〔湛海筆〕（以上、宝山寺）、新羅明神像、新羅明神像〔冷泉為恭模写〕（以上、聖護院）

9月5日～10月1日

【中国の仏画】◎禅宗祖師図〔天龍寺〕、◎北斗九星像〔宝厳寺〕、◎五百羅漢像〔大徳寺〕、◎十王像〔陸信忠筆、第一～五〕、◎仏涅槃図〔陸信忠筆〕（以上、当館）、羅漢像〔陸仲淵筆〕（能満院）、楊柳観音像（円生院）、華厳海会善知識曼荼羅（東大寺）

【密教画】◎一字金輪曼荼羅（南法華寺）、愛染明王像（秋篠寺）、愛染明王像、両頭愛染曼荼羅（以上、当館）◎文殊菩薩像（西大寺）、◉十二天像〔地天〕（以上、西大寺）、◎胎蔵図像（当館）

【浄土教画】◎当麻曼荼羅（西教寺）、智光曼荼羅（文化庁）、清海曼荼羅（聖光寺）、◎九品来迎図〔下品中生〕（瀧上寺）、◎阿弥陀来迎図（宝厳寺）、阿弥陀聖衆来迎図（大蔵寺）、◎二河白道図、◉辟邪絵〔毘沙門天・栴檀乾闥婆〕（以上、当館）

書跡

6月24日～7月30日

増一阿含経（正暦寺）、◎大般若経（薬師寺）、◉法華経（長谷寺）、大智度論巻第六十六、法集経、道神足無極変化経、◎金光明最勝王経、大毘盧遮那成仏神変加持経巻第四、尊円親王叡山拝堂記、◎青蓮院寺領目録、雑見集、◎七大寺日記、◎類秘抄、◎東大寺開田図（以上、当館）

8月1日～9月3日

◎大般若経〔長屋王願経〕（見性庵）、◉大毘盧遮那成仏神変加持経、西大寺資財流記帳（以上、西大寺）、◎紫紙金字法華経（乗宝寺）、◎紺紙金字法華経（興聖寺）、◎大般若経（七寺）、般若心経（海住山寺）、◉伝教大師略伝（園城寺）、◎阿弥陀悔過料資財帳（東大寺）、諸菩薩求仏本業経〔五月一日経〕、大方広十輪経、浄蔵法師伝、◎弘福寺牒並大和国判、◎筑前国島郡川辺里戸籍、◎豊前国仲津郡丁里戸籍（以上、当館）

9月5日～10月1日

瑜伽師地論巻第八十九、大毘盧遮那経義釈、◎紺紙金字三字宝塔法華経、紺紙金銀交書金剛頂経瑜伽十八会指帰〔中尊寺経〕、◎神護寺如法執行問答、不動護摩次第、◎華厳経十重唯識瑠鑑記、◎慈円懐紙（以上、当館）、梵網戒本疏日珠鈔巻第三十（本証寺）、大般若経（東明寺）、大般若経〔足利尊氏願経〕（園城寺）、◎五山衆試文稿（竹林院）

◉＝国宝　◎＝重要文化財

以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

展示評

特別展「大勧進 重源 ―東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出―」

並木誠士（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授）

平重衡により焼き討ちされた南都の復興に尽力した俊乗坊重源に焦点を当てた展覧会である。肖像彫刻を考えるうえで欠かすことのできない重源像四体が並ぶなど話題も多い。「彫刻、建築から土木事業まで…時代をプロデュースした老僧がいた」というキャッチコピーからもわかるように、南都の再出発をまさにトータルコーディネイトした重源に関するさまざまな作品が八部構成により展示されている。一般的にはさほど馴染みがあるとは言えない重源の事跡がどのように示されているかという点に関心をもって展覧会に臨んだ。

ある程度まで重源とその時代についての知識があれば、たしかに今回の展覧会は、重源というひとりの僧を通して新しい動きが胎動してきた十二世紀の様相を伝えてくれる。しかし、一般の人びとに対してもそうであったかというと多少疑問が残る。重源がなぜ新しい情報を持ち得たのか、そして、どのような状況下でそれを発揮することができたのか、という点が十分に伝えられていたとは思えないからである。後半には新たな美としての宋風も示されているが、それのもつ意味と新しさも十分に示されているとは言えない。

展示の構成は「南都炎上」と「入唐三度聖人」で始まる。言うまでもなく、この二つの出来事は、重源の活動の契機であり知識の背景であるわけだが、しかし、それが淡々と構成に組み込まれているために、重源が新しい時代をプロデュースしたというダイナミックな流れに結びついてゆかないのだ。たとえば、南都炎上をもっと強調して、そのことの重大さを「つかみ」として展覧会に導入してゆくということも考えてよいだろう。つかみだから多少ドラマティックでいいだろうし、演出があってもいい。焼き討ちを強調することにより、リセットされた南都を復興した重源のパワーが際だち、「入唐三度」を強調することにより、「新たな美」を創出した重源の位置が説得力をもってくるだろう。生真面目なのはわかるが、そういうメリハリも必要だと感じた。

また、時代のプロデューサーとしての重源の生き方は、現代の問題に置き換えても大変興味深いはずである。御遠忌八百年という契機があるにせよ、やはり展覧会が持ちこたえられるためには、展示が「今」と結びつくことも必要だろう。その点でも多少の物足りなさを感じた。

改善すべき最大の点は、作品を展示する台の高さだろう。のぞきケースは、高いうえに側面もガラスではないため、背の低い小学生や老人には中に展示されている作品が見えない。また、壁付きケースに置かれた台も高く水平なので、その上に展示されている作品が見づらい人はいるはずである。展示構成に合わせて色を変えている台は、おそらく今回の展覧会のために新調したのであろうが、なぜ今こんな高い台を作るのだろうかという疑問が残った。もちろん台を低くすればいいという単純な問題ではない。しかし、作品が安全であり、なおかつ多くの人が見やすい展示はつねに模索されるべきだろう。美術館・博物館が今後ますます開かれた場になるためには、その点の配慮が必要になってくるはずである。

●夏季講座●

聖武天皇1250年御遠忌記念・奈良国立博物館本館展示リニューアル記念

「聖武天皇と〈奈良〉」

主催／奈良国立博物館・奈良女子大学21世紀COEプログラム

8月9日（水）〔受付9:30～〕10:00～17:30

①聖武天皇と東大寺　橋本聖圓（東大寺長老）
②大仏造立の都　紫香楽宮　小笠原好彦（滋賀大学教授）
③聖武天皇遺愛の品々　内藤　栄（当館工芸考古室長）
④リニューアルされた本館展示の見所　稲本泰生（当館企画室長）

8月10日（木）9:20～16:30

①奈良時代の仏教と天皇　本郷真紹（立命館大学教授）
②盧舎那仏の古代と中世　西谷地晴美（奈良女子大学助教授）
③聖武天皇宸筆『雑集』　西山　厚（当館教育室長）
④奈良に伝来した平安仏画の名品 子島曼荼羅と館蔵十一面観音像　谷口耕生（当館研究員）

8月11日（金）①②9:20～12:15　③は自由見学

①説話にみる光明皇后　阿部泰郎（名古屋大学教授）
②明治期における宝物調査と奈良　鈴木廣之（東京学芸大学教授）
③奈良国立博物館（本館・新館）見学

会　場：奈良女子大学講堂（近鉄奈良駅から徒歩約5分）　＊11日午後は、奈良国立博物館
参加費：3,000円　＊テキスト代などを含みます。受付け決定後に振り込んでいただきます。
定　員：380名　＊応募多数の場合は、抽選により決定します。
応募締め切り：7月14日（金）必着。　＊受付けの可否を7月21日（金）までにご連絡します。
応募方法：往復はがきによる、郵送に限ります。
＊「夏季講座参加希望」と書き、
［氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢］を明記して下さい。
奈良国立博物館友の会のメンバーの方は、友の会カード番号もお書きください。
＊返信用はがきには宛名を記入してください。
＊はがき1枚につき申込者1名としてください。
（申し込み先）〒630-8213　奈良市登大路町50　奈良国立博物館教育室
（問い合せ先）教育室　電話 0742-22-4464　FAX 0742-22-7221

●奈良国立博物館賛助会員

2006年5月末現在、個人会員18名、団体会員9団体、特別賛助会員3団体のご登録を頂いております。
新規会員となられた方のご芳名をあげさせて頂きます。
【個人会員】　杉　宗親　様
＊賛助会員に関するお問い合わせは、
奈良国立博物館 渉外課 賛助会員担当まで。　電話0742-22-7771（代）

●特別展記念企画●

鼎談「北村昭斎の全仕事」

北村昭斎
木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）
鈴木喜博（当館上席研究員）

日　時：9月9日（土）　午後1時30分より3時まで
会　場：当館講堂
開場午後1時（1時より講堂入口で整理券配布）

●サンデー・トーク●

新企画です！　日曜の午後に、楽しいお話を。

7月23日（日）　近づいて見る文様の世界　宮崎幹子（当館研究員）
8月20日（日）　リニューアルされた本館展示　岩田茂樹（当館美術室長）
9月17日（日）　北村昭斎：漆芸の魅力　柳橋　眞（金沢美術工芸大学教授）

※いずれも、午後2時～3時、当館講堂。聴講無料。

◆観覧料改定のお知らせ

奈良国立博物館では、2006年10月1日より平常展観覧料金の改定を行うことになりました。奈良国立博物館は平成18年度から独立行政法人として第2期の中期計画期間に入り、自己収入として確保すべき予算額が前年度に対し、大幅に引き上げられました。ご入館いただく皆様の負担増になることはまことに心苦しく存じますが、国立博物館の置かれている状況に鑑み、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平常展観覧料（10月1日より適用）
一般500円（団体400円）　大学・高校生250円（団体200円）
※団体とは、責任者が引率する20名以上の者をいう。
中学生以下と満70歳以上の方は無料

◆キャンパスメンバーズ

奈良国立博物館は、仏教美術を中心に多彩な博物館活動を展開し、開かれた親しみやすい『美と知識と憩い』の場を目指しております。

「キャンパスメンバーズ」とは、大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。

現在、加入いただいている大学は次のとおりです。

奈良教育大学　帝塚山大学（帝塚山高校含む）　奈良女子大学
京都嵯峨芸術大学　大阪教育大学　京都精華大学

＊キャンパスメンバーズに関するお問い合せは、奈良国立博物館 渉外課 キャンパスメンバーズ担当まで。　電話0742-22-7771（代）

平常展のみどころ

弘福寺牒並大和国判

奈良国立博物館
1巻
縦28.2cm　長309.0cm
平安時代　延久4年（1072）
重要文化財

本品は、墨書きの文章の合間に、朱による書込が施された文書である。墨書は土地の所在と面積を記した地の文で、朱書はそれが正しいかどうかチェックした際のもの。

本文1行目にあるように、この文書は「弘福寺」が提出した申請書で、宛先は「当国衙」すなわち弘福寺の所在する大和国の国衙（役所）である。2行目には申請内容の概略が記され、これまでどおり弘福寺の領地に対する課税の免除をお願いしたい、と述べる。3行目以降には、免除を希望する寺領の所在地と面積が詳細に記される。朱のチェックは申請書を受け取った大和国衙で書き込まれた。

弘福寺による税免除申請はこれが初めてではなく、過去に何度もおこなわれ、それはおおむね4年ごとであった。なぜならば、国司の任期が4年であり、国司が交替する度に申請しなければならなかったからである。元来、国内のすべての土地の管理権は国衙にあり、特別な事情がある場合に限り寺院等による占有が認められていた（これを荘園という）。よって、それぞれの土地の税免除（不輸）の承認権は国司にあり、国司が交替すればその裁量いかんで免除が認められないこともあった。

こうした事情であるから、弘福寺はあらゆる証拠書類を揃えて免除を獲得しようとするし、国衙側は過去の資料を徹底的に調べ上げ、少しでも税収を増やそうとする。その戦いの結果が、おびただしい朱書に覆い尽くされたこの文書の姿なのである。

野尻忠（当館研究員）

西新館　8月1日（火）～9月3日（日）

土偶

山形県飽海郡遊佐町杉沢遺跡出土
奈良国立博物館
高18.3cm
縄文時代晩期

縄文時代晩期（およそ紀元前1,000年～）の東北地方には、遮光器土偶と呼ばれる特徴的な土製の人形が出現している。スノーゴーグルに似た横一文字の大きな目をした土偶で、しばしば教科書にも登場するおなじみの土偶である。本品はその遮光器土偶の最終段階に位置付けられている標識的な資料である（大洞C2式）。やや小ぶりながら、ほぼ完形を保っており、中はすべて中空、へその孔は中まで通じている。目の表現はおとなしく、頭部も小さめ。逆に腰の張り出しが強調され、肩と腰に集中して文様帯が設けられている。この文様は、一度縄文を施した後、入り組んだ文様を割付け、地の部分をヘラで磨り消して浮き立たせる「磨消縄文」と呼ばれる技法である。当時の土器と共通するため、これによって土偶の新旧も判断されている。

乳房と性器の表現から、これが女性をかたどったものであることは疑いない。土偶はマツリの道具と説明されるが、どんな行為に使われたかは諸説紛々としている。本品は石組みの中にうつぶせで置かれていたという、全国的にも希有な発見伝聞がある。一時的な保管か、儀礼の最終段階なのか定かではないが、土偶の用途を考える上では最も注目される資料である。

吉澤悟
（当館資料室長）

西新館
6月24日（土）～
10月1日（日）

開館予定（7月～9月）

■開館時間
9時30分～17時（ただし毎週金曜日と、8月12日㈯・13日㈰・14日㈪・15日㈫は19時まで）
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休 館 日
月曜日（ただし7月17日、8月14日、9月18日は開館し、7月18日と9月19日は休館します。）

観覧料金

特別展　「北村昭斎　―漆の技―」

	大　人	大学・高校生	中学生以下
当　日	700円	400円	無料
前　売	600円	300円	
団　体	600円	300円	

平常展・特別陳列・親と子のギャラリー

	大　人	大学・高校生	中学生以下
一　般	420円	130円	無料
団　体	210円	70円	

〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、
またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から
バスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）　TEL. 0742-22-7771　FAX. 0742-22-7221　テレホン・サービス 0742-22-3331　ホームページ（URL）http://www.narahaku.go.jp/

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。